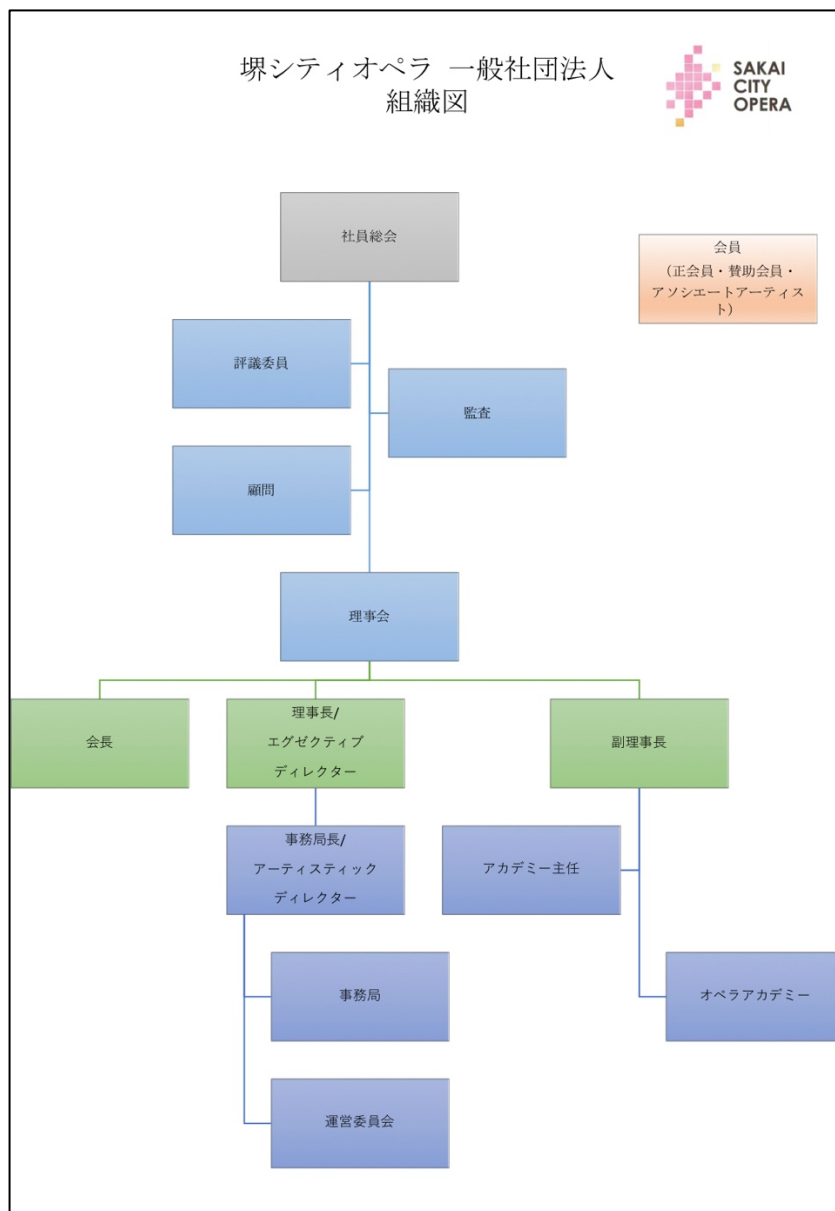


堺シティオペラ一般社団法人

法人概要

名称 堺シティオペラ一般社団法人
 英文名 Sakai City Opera General Incorporated Association
 設立 1979年「堺市民オペラ」として発足
 1986年「堺市民オペラ協会」へ名称変更
 1989年「堺シティオペラ」へ名称変更
 2009年「堺シティオペラ一般社団法人」一般社団法人移行
 所在地 〒591-8037 大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町4-256 八光ビル 2F
 代表者 葛村和正（代表理事 会長）坂口茉莉（代表理事 理事長）宮崎優也（事務局長）
 スタッフ パートタイムスタッフ 4名、契約スタッフ 2名、運営委員 15人





第34回定期公演『アイダ』

沿革

1978年、市民オペラとして産声をあげ、それを基盤に1986年、堺市民オペラ協会発足。創作オペラ「晶子」公演。以後毎年オペラ定期公演を上演。1989年、堺シティオペラと改称。創設当時から海外の歌劇場やオペラ団体との交流を盛んに行う。1995年にはドイツのケムニッツ歌劇場と『魔笛』を共同制作し、堺とケムニッツの2カ所で公演をする。2006年にはイタリアのプッチーニフェスティバルで、日本の団体として初めて、現地との共同制作による「蝶々夫人」を上演、真の日本の様式美として絶賛を博した。2013年には音楽の都ウィーンで、日本のオペラや歌曲、舞、狂言を交えた公演を行うなど、精力的に活動している。2012年第27回定期公演「ちゃんちき」が三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞、2014年第29回定期公演「黄金の国」で音楽クリティッククラブ賞、佐川吉男音楽賞、2015年第30回定期公演「カルメン」で大阪文化祭奨励賞を受賞した。2019年には日本・オーストリア国交150周年コンサートをウィーンにおいて2公演行なった。

当法人のミッション・ビジョン

ミッション（社会的役割等）

オペラを主とする舞台芸術活動を通して堺市コミュニティを始め関西に、国際的な水準の音楽とオペラ公演またオペラ普及活動を提供し、それを通じて音楽の素晴らしさを伝える。また、2020年のオリンピックイヤーで国際的な注目を浴びる日本において、政治と文化が共存し文化力の高い国際都市としてのフラッグシップモデルになれるような舞台芸術を通じた社会活動をする。

ビジョン（中長期的な方針や戦略等）

- 国際的な水準の音楽とオペラ公演を提供し続けます。
- レクチャーやワークショップを通してオペラに興味を持ってもらい、理解してもらい機会を作ります。
- 将来のオペラ歌手を始め音楽スタッフ・舞台スタッフの育成に力を注ぎます。
- 学校へのアウトリーチ公演を始め、当法人の子ども向け企画を通して将来のオペラファンを育てます。
- 地域内での芸術団体との協力により地域の文化力の向上に貢献します。
- 地域の企業・事業者と良いサポート関係を気づき、オペラを通じた地域形成に従事します。
- 海外の歌劇場や音楽祭とのコラボレーションにより地域の国際文化交流の起点になれるよう努力します。



開口神社での「まちなかコンサート」



堺東高島屋での「まちなかコンサート」

当法人の教育・普及への取組

オペラは音楽、文学、演劇、美術、舞踏などの複数の分野の芸術の混在によって創造される一つの統一された総合芸術であり、一度に様々な分野の芸術に触れることができます。歌手、演奏家、スタッフによるハイレベルな公演を通して、非日常的な物語がステージの上で息吹きを吹き込まれ歌と演劇を通して現実に存在するものとなります。その非日常的な体験を通してこれからの21世紀のグローバル市民として社会を生き抜くスキルである 4C. (Communication, Critical Thinking, Creativity, Collaboration)を成長させる事ができます。またそれに付随するレクチャーリサイタルやワークショップなどを通してオペラにまつわる様々なことについて学ぶ機会を設けています。オペラを普及させるためにハイレベルな公演をたくさん提供することはもちろんですが、そこに社会に必要とされる新しい付加価値を見いだすことで、今までオペラに関心が無かった方々に知ってもらえるようにしています。



2019年度 ウェスティミラクル 『森は生きている』



2018年度 「子どもオペラぶら座」

当法人の社会における幅広い分野に対して波及効果を及ぼすための取り組み

経済的支援を受けるためだけの地域の企業や事業者との関係ではなく、その企業や事業者とともに地元コミュニティーを作り上げるシステムを確立している。例えばファミリー向けのオペラ公演「ウェスティミラクル」シリーズではお客様の中から抽選でプレゼントを渡しますが、そのプレゼントは全て地元の企業、事業、個人からの寄付で成り立っている。オペラが街の人と企業や事業者を繋ぐ要の役割を果たせるように心がけています。

上記に述べたようにただ単にオペラ公演をする団体として存在するのではなく、オペラ公演を通して新しい存在価値を見つけそれを発信していき、オペラ団体としてだけでなく社会活動団体としての存在になれるよう心がけています。